



ともに立ち、向かう
岐阜協立大学
GIFU KYORITSU UNIVERSITY

CONTENTS

特集1	2
表紙のひと	4
Zoom Up 協大生	4
大学院	4
特集2	5
News&トピックス	6
キャリア支援課だより「就職決定者報告」	7
教職員人事	8
法人役員・評議員人事	8
近著紹介	8
お知らせ	8

特集

withコロナ時代の
看護教育
オンライン授業を
サポートする学生たち

高橋利行
副学長
—地域連携担当—
(経済学部教授)

GKU Now

2021.5 Vol.101



コロナ禍で本学の看護教育の環境はどのように変化しましたか？



松波 美紀 教授

1年を振り返ると、4月の段階において全学的にオンラインで課題を出してレポートを提出する課題学習に切り替わる形で始まったかと思います。その時は、看護学部としては看護教育を課題学習で評価する授業というのはありえないと思う気持ちが半分以上あったのかなと思います。しかし第一回緊急事態宣言下でしたから、出来る限り授業をうまく進められるようにするために、本来前期で行っている演習を含む科目で、対面授業を必要とする科目を後期に回して、講義中心でオンラインで進められる科目を前期に実施するよう、時間割を大幅に変えてオンライン授業を始めたのを覚えています。

私などはパソコンを使うのが疎いので、オンライン授業のイメージはできても本当にそれが実行できるのかという不安もとても大きかったのですが、やらざるをえない状況でしたね。

学生もオンライン授業に耐えられる環境を持っているのか手探りの状態でした。iPadを全ての学生が持っていました、それをどのぐらい使えるのか、課題を受け取ってそれを印刷して見ることができるのか、レポート提出もどうやってするのか、そういうこと自体も分かりませんでしたし、学生と実際のやり取りをどのようにするのかということも分からなかったのです。5月の連休期間に教員で準備をして学生と連絡ができるようにしました。Microsoft-Teamsで初めてチームを作って学生と直接コンタクトを教員が取り始めた時、名前を呼びかけて、学生が画面に現れニコッと笑ったり、緊張して手を振ったりする姿を見た時に「繋がったんだな、あーよかったな」と安心しました。

当初は、オンラインでどれだけできるかわからないけど、でも学生と繋

がっているから大丈夫というような気持ちで始まったわけですね。

オンライン授業は、小さなハプニングがあっても、大きなトラブルは起こらず、淡々とそれぞれの先生が授業を進めていけたかなと思います。

私自身は老年看護学概論という科目で学生に講義をしていましたが、オンラインだとこちらの発言に対して学生がどんな顔をするのかわからず、学生の様子をつかめないところに授業の苦勞がありました。

そのようなパタパタした状況から始まりましたが、先生方が頻りに話し合い創意工夫しながら授業の方法をアップグレードしていかれたので、演習もオンライン化に組み込んだり、後期はMicrosoft-Formsを使ってオンラインで定期試験するということまでできました。

最初手探りだったものが、オンラインで学生の評価ができるということまでいけたことが一年目の成果だと思います。

ただ、レポート課題が増えたことから、毎日課題を受け取る学生は必死だったでしょう。レポート提出が遅れる学生には、教員から連絡をこまめにとって授業についていけるように支援したことで、それなりに学生も教員の支援に応じて何とかやってきたかなと思います。

臨地実習自体が難しくなり、実習も学内で行うということは、私たちもやったことがないわけですね。目の前いらしゃるはずの患者は不在。学生はまだ、「患者」自体を十分イメージできない状況下で、さまざまなケアを修得しなければいけないわけですから、どうやって学生を支援したらいいのかっていうことは本当にずっと悩みました。テレビ局の取材を受けた学生が、自分たちがコロナ世代と悪く言われたくないとインタビューに答えていましたが、本当にそういう思いをしなくてもいいように今後も授業の充実が必要です。

オンライン化でたくさんのレポートを出す学生も大変だったと思いますが、教員も課題を出した80名のレポートを評価して次の授業にその評価を踏まえて授業を企画しなくてははいけません。その一方で学生たちが必死に授業についてきてくれたので、学生と教員の気持ちが一体になった授業ができたのかなと思います。コロナ禍で授業のオンライン化と学内での少数規模の実習を実施という大きな変化はありましたが、なんとか学生が単位を取得できる段階までいけました。学生も本当に頑張ってくれました。学生たちの頑張りがあったからこそ私たち教員も頑張れたと思います。





学内実習に懸命に取り組む学生と教員の様子が名古屋テレビ情報番組で紹介されました

馬場 貞子 准教授



実習は、看護の知識・技術・態度の統合を図りつつ、実践へ適用する能力を育成することを目的として、対象者との関係形成やチーム医療において必要な対人関係形成能力を養い、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付けることを目指す学修の場です。

コロナ禍で医療体制を維持していくことが大変な状況下において、学生の実習を受け入れていくことは病院及び施設でも初めての事態です。病気を患い病床生活を送っていらっしゃる方々は易感染状態にあるため、ご家族の面会さえも最小限に止められている中では、臨地実習といえども多くの学生が来るということに対しての不安も大きなことであったと思います。発症当初より、病院・施設の看護管理者の方々とは頻りに連絡を取り、学部内では対応を検討する委員会を設置し対策に取り組んで来ました。学生は、健康管理シートにより日常より体調のセルフモニタリングを行い、アルバイトの自粛と2週間前からの禁止、3密の場は避けた生活を促してきました。

しかし、第3波の感染拡大により病院・施設の状況のみではなく、学生の感染の危険性も考慮し2月に予定された実習は、学内に移行することを12月より検討し1月早々に決定をしました。大学内の実習となっても、目指す目的が修得できるよう教材やプログラム・感染対策をし、欠席者や感染もなく無事終えることができたことに、ほっとしています。

この経験より、「対象者やチーム医療において必要な対人関係形成を養

う]ということは臨地の中で直接対象者と関わり、人の手の温かさや反応に触れないと学べないことも多くあり、改めて実習の学びの場の重要性を感じました。

学生生活の支援も含めたサポートはどのようにされましたか？

緒方 京 准教授

教員サポートメンバーたちとMicrosoft -Teamsで学生といち早く繋がることに努めました。当時は外出の自粛もあり溜まった鬱憤を誰にも話せなくて苦しんだ学生もいたと思います。

だからこそ、何層にも渡って学生の不安や不満を相談できる体制を整えられるようにしました。メールで話せる、チャットで話せるなど、チューター教員に何らかの方法で簡単に連絡が取れるような体制です。保護者教育懇談会もオンラインで実施しました。

入学後、下宿した学生の多くは緊急事態宣言によって通学もできなければ地元にも帰れなくなってしまいました。スーパーはどこにあるのかとか、友達はどこにいるのか、誰にどうやって連絡すればいいのか、何を誰に相談すればいいのか、そういうことすらわからず家に引き込み状態になった学生が多かったです。下宿生ばかりでなく自宅にいる学生たちも、ものすごい孤独の中でオンラインの授業を延々と受けていたのだと思います。

学生たちが大学からの情報から遠ざからないようにすることが、教職員の役割ではないかと感じて、webカフェなど企画し、決まった時間帯に学生がオンラインで教員に気軽に相談できる場を作ったりしました。相談というより雑談などを通して気分転換したり、学生同士でおしゃべりするなど気軽に話せるコミュニティの場になったと思います。



教員と話しやすくなったり、学生同士が話せるようになると、オンライン授業で使うiPadやMicrosoft -Teams などデバイスやアプリの使い方をお互いに教え合うなど、良い効果がありました。

学生へメッセージをお願いします



松波 美紀 教授

授業がオンライン化されたとしても、看護師として最も重要な相手の話をしっかり聞いて患者の状態に気づき、回復のために、時には安楽な死を迎えられるに必要な支援を考えられるスキルを学生が養える看護教育を提供できるよう、我々教員は今後も努力していきます。

馬場 貞子 准教授

制限を受けた学びの環境下であるからこそ、これまで以上に座学、演習、実習まで連続した学びができるような仕組みを整えていきたい。危機の状態であっても、その中でチャンスに変えられるものを見

つけながら看護を学ぶ者として自分たちの職が持つ社会的意義について気づくことが大切だと思ひ、それを一緒に求めていきましょう。

緒方 京 准教授

いまだ、教職員のサポートが届けられていない学生がいるかもしれないので、ますます学生をつぶさに見ることが重要だと思っています。学生には自粛ムードのある中でも、自分の学びのためになる行動を自らで起こしてほしいと思います。課題がたくさん出されて対応に困ったり、アルバイトが制限されて経済的に困ったりした時に声を出す、例えばチューター教員に話してみるということをしてもらえると、解決のための方法を関係部署で探してサポートすることもできます。もし、友人が困っていたら教えてください。みんなで支え合っ

表紙のひと



高橋 利行 副学長

地域連携を担当する副学長の 日頃のご活躍についてご紹介ください

「地元市町・企業等との連携」「高校との連携」の仕事をしています。本学は、岐阜県をはじめとして延べ20の市町村と連携協定を結んでいます。その連携の窓口をしています。また、協定以外でも声をかけていただける企業や団体に大学の持っている資源を生かしていただき、この大学の地域での役割を高め、地域から頼りにされる大学となりたい

と思っています。

また、高等学校との連携については9高校と連携協定を結んでおり、先生方に講義をお願いしたり高校での面接指導に出向いていただいたり調整をしています。最近、地元高等学校が「ふるさと学習」として地域研究を行っており、学長をはじめ多くの先生に高校へ出向いていただき本学への信頼感も高まってきていると感じています。

先生の担当科目について教えてください

教員を目指す学生を対象とした教職課程の講義・演習を受け持っています。高校教員出身ですので実際の学校の状況を理解してもらえる学修となるよう心がけています。また、教養の「数学」を担当しています。講義では実際の場面を題材として扱い、物事を「数学的に捉えることができるようになることを狙いとしています。具体的には、日常の世界で扱われる多くの数字を個々に考えるだけでなく、まとまりとして捉え処理していくことを「行列」を通して学ぶ「数学1」と、統計の基礎を学ぶ「数学2」を担当しています。

最後に学生に向けて

メッセージをお願いします

本学では、開学当初から地域連携を大切にしており、「マイスター倶楽部」など学生の団体が、地域をフィールドとした活動を行っています。地域の方々から頼りにされており、いろいろな場面で声をかけていただいています。今年度、3号館1階に「学びラウンジ」を整備しました。そこで地域連携関係団体の学生が活動しています。地域との連携に興味のある人は、是非のぞいてみてください。自習できるコーナーもありますので一度来室してください。その部屋には地域連携に関する教職員もいますので地域・社会との関わりに興味のある学生は声をかけてくれるとありがたいです。

本学の学生は、対外的な活動や教育関係ボランティアなどの場面でたくさんの方からお褒めをいただきます。学生一人ひとりが素晴らしいものを持っています。自らすすんで、地域社会、もっと広く言えば社会に関わっていく機会をもってください。きっとあなた自身が成長できると思います。

Zoom Up 協大生

経営学部 スポーツ経営学科3年 佐々木秀斗 さん (愛知県 安城学園高校出身)



岐阜県スポーツ賞受賞おめでとうございます

ありがとうございます。U20全国陸上競技大会男子ハンマー投において日本歴代3位の記録で優勝した実績が認められて受賞できたことがうれしいです。大垣市民大賞も受賞できて大学だけでなく地域にも貢献できて本当によかったです。

ハンマー投競技の魅力は？

ハンマー投競技は部活の指導者の勧めで高校から始めました。中学校までは砲丸投を選択していましたが、砲丸と同じ非常に重い鉄球を、より遠

くに飛ばすための動きがダイナミックで、パワフルな感じがするところに魅かれました。

本学に進学した理由を教えてください

大学進学後も陸上競技を続けたいと思っていた僕にとって、岐阜協立大学は楽しみながら強くなれる環境だと感じたので本学に進学しました。実は高校生の時から本学の練習に参加させてもらったのですが、厳格なルールに縛られた高校の部活に比べて、本学の先輩たちはのびのびと練習しながらも強いというイメージがありました。練習は原則的に学生の自主性に委ねられているので、指導者からの厳しい声はいちいちありません。のびのびやっているように見えて、実はめちゃくちゃ練習するストイックな先輩たちに僕は魅力を感じました。

今後の目標を教えてください



日本インカレで3位以内に入賞し表彰台に立つことを目標にしています。そのために、メンバー同士で行う練習では常に一番になることを意識しています。練習で一番になれ

ば必然的に結果も一番になれると思うからです。また、大学生になってからは練習メニューを自分で決めて調整する必要があることから、自分を甘やかすメニューにすると結果に影響することがわかりました。ちなみに僕は「数学」が好きです。答えを導き出すために、様々な方法を考えてトライできるからです。自分の知らない方法を試してみても答えが出たときは本当にうれしいです。僕を指導してくれる田中監督は、僕が何か習得できたら、次のステージの指導をしてくれます。ハンマー投も数学と同じで未知の世界に向かっていっているところに僕は楽しさを感じているんだと思います。



岐阜県スポーツ賞・大垣市民大賞をW受賞

大学院

職業実践力育成プログラム(BP)を開講

大学等におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定する制度「職業実践力育成プログラム(BP)」。大学院(経営学研究科)が開講する「トヨタ生産方式とカイゼンリーダー養成プログラム」は、この「職業実践力育成プログラム(BP)」として認定されています。

このプログラムは、トヨタ生産方式によるカイゼン活動を実践する専門職として「カイゼンリーダー」を位置づけ、カイゼン活動の知見を、短期間で身につけられるよう、トヨタ生産方式の基礎知識を座学で学ぶ科目と、受講生が在籍する職場をケーススタディーとして座学で学んだカイゼン活動を実践する実習科目で構成されているところに特徴があります。

2021年1月から3月の期間で製造業・サービス業のほか行政機関など多分野から受講生を受け

入れ、計11名の社会人が全6セッション141時間のプログラムを修了しました。



履修証明書を授与された社会人のみなさん

特集2

オンライン授業をサポートする学生たち

新型コロナウイルス感染症の影響で、大学の授業のオンライン化が進められた2020年度、オンラインで授業を進行する教員、そしてその授業を自宅で受講する在学学生をサポートする学生たちをご存じでしょうか？

今回は、オンライン授業をサポートするソフトピア共同研究室の学生たちの活動をご紹介します。

サポート内容を具体的に教えてください

一 坪井

僕たちの活動は、2020年3月の半ばに在学学生向けサポートサイトを立ち上げ、Microsoft Teamsの使用マニュアルを掲載するところから始まりました。学生からの質問にもサイトを介して答えられるような体制も構築しました。正直、はじめは戸惑いました。大学にOffice365が導入されたばかりだったので、僕たち自身アプリそのものを使ったことがなかったからです。アプリ操作を何度も練習して、マニュアルが作成できるまでにしました。

一 熊田

マニュアル作成自体もみんな経験がなかったので、とにかく大変でした。新入学生でもすぐに操作方法が把握できるように、加工したアプリ画像をWebサイトに掲載していく作業から始めました。サポート専用のWebサイトも自分たちでデザインして立ち上げ、初めて見た人でも分かりやすいように工夫しました。

一 古田

画面のスクリーンショットだけのマニュアルは分かりにくいんです。とにかく、制作期間が2週間程度と短かったのでメンバーで話し合いながら画像にキャプチャなどを付けて編集し、サイトに掲載していきました。画像以外にサイトに掲載する説明書も作成しましたが、監修にあられた佐々木先生やソフトピア共同研究室の先輩たちから画像の加工や説明文について厳しく指摘をいただきながら修正を繰り返しました。在学学生のサポートサイトがある程度整った後に、教員用のアプリ操作マニュアルの整備に関わらせていただきました。先生がどのようにオンライン授業をするのか分からないので、こちらも佐々木先生に指導いただきながら制作を進めました。



経営学部情報メディア学科4年 古田尚輝さん
(岐阜県 本巣松陽高校出身)

一 坪井

5月に学生アルバイトとして大学で雇用されてからは、教員や在学学生からの質問に個別に対応するサポートも、メンバーが自分の学業の合間を縫って実施しました。質問や対応状況はメンバーで情報共有したことで、みんなのサポートスキルも向上できたと思います。教員によってICTデバイスの操作スキルも授業の方法も異なるので、一人ひとりの先生のご希望を聞きながら個別対応しました。



経済学部経済学科4年 坪井佑太さん
(岐阜県 大垣西高校出身)

一 古田

9月に教務部長の井戸先生から依頼を受けて、アプリ操作のマニュアルを動画版にアップグレードし、学内のFD研修会に裏方で参画するプロジェクトに関わることになりました。井戸先生と佐々木先生に監修していただきながら、僕たちとソフトピア共同研究室1年生の5名にも手伝ってもらいました。静止画と説明文で構成された従来のマニュアルを、操作画面を動画編集し、読み上げ音声合成ソフトで音声説明を加えたことで、初期のバージョンに比べて、より分かりやすいマニュアルが制作できたと思います。

一 坪井

その動画マニュアルは、大学公式ホームページの教員専用サイトにリンクをはって公開しています。在学学生用の動画マニュアルは、ソフトピア共同研究室の後輩たちが引き継いで制作してくれました。学生版のマニュアルは、iOS版とiPad版、Windows版の3つのバージョンを用意して、インストール方法から課題の提出方法など、かなり詳細な説明動画をつくってくれたので、オンライン授業に慣れていない新入生はこれを見ればすぐに操作できると思います。

経験から得られたもの、今後の抱負は？

一 古田

自分の学びとは異なる専門分野の先生って、

遠い存在だったんですが、オンライン授業のサポートをさせていただく中で、先生方のお話を研究室で聞かせていただくと、例えばスポーツ産業のことだったり、金融のことだったり、面白くて興味のわく内容が多く、大学の学びの中で自分の視野がいかに狭かったかを思い知らされました。大学卒業後は大学院進学を目標としているので、この経験で出来るようになったことを自分の研究に活かしたいと思います。

一 坪井

マニュアル制作の経験から、動画の可能性を追求したいと考えました。初期の静止画版マニュアルをリリースした時、手ごたえを感じられませんでした。9月に動画版でマニュアルを作り直して、FD研修会に参加された教員の皆さんから「とても分かりやすい!」と言っていただけで、ようやく手ごたえを感じられてうれしかったです。現在、自主制作したビデオブログをYouTubeに投稿する活動を研究の一環として行っていますが、用途に合わせて面白くて分かりやすい動画を創作していきたいです。

一 熊田

僕はアプリ開発をメインに研究しているので、直感的に操作が分かりやすいボタンの配置だとかアイコンのデザインだとかが非常に重要だと感じました。世界中で使われているMicrosoftのアプリも、まだ使いにくいところがたくさんあることを発見できたのも良い経験でした。ITの進化は目覚ましく、日々新しいアプリがたくさん出ていますが、それに順応できていない方もいるので、そういう方も扱いやすいアプリが開発できるエンジニアになれるよう大学での学びや研究を深めたいです。



経営学部情報メディア学科4年 熊田将磨さん
(岐阜県 富田高校出身)

岐阜協立大学 地域連携推進センター
ソフトピア共同研究室
<https://softopia.gku.ac.jp/softopia/home>

News&トピックス (2020年10月～2021年4月)



高等学校で竹内学長が講演(地域探求入門講座)

2020年10月2日(金)、11月6日(金)に、大垣北高等学校・大垣南高等学校で竹内治彦学長が「地域探求入門講座—地域の成り立ちから考える—」と題し、高校生に講演しました。岐阜県の第3次教育ビジョンでは高校生が地域の魅力を知り、地域課題の解決等の探究的な学びの推進を目標に掲げており、この講演会は、高校での地域探求入門講座として開催されました。竹内治彦学長からは、全国の様々な都市の人口推移と産業の関連について多様な資料を基に説明があり、クイズ形式も交え「何故そこに都市が成り立ったのだろうか」を自身で考えてもらう形で講義が進みました。



インターンシップ成果報告会を開催

本学は、キャリア教育の一環として、企業・団体での就業体験をとおりして職業観醸成を目的とするインターンシップを推進しております。2020年10月28日(水)「インターンシップ成果報告会」を開催し、インターンシップを経験した3年生約40人が自身の学びについて報告しました。報告会には、岐阜県中小企業家同友会の役員など外部から評価員をお招きしました。実務家である評価者の講評に強く刺激を受けている学生の様子が非常に印象的でした。



学会公開講演会を開催

2020年10月29日(木)、岐阜協立大学講堂にて、「新型コロナウイルス感染症～今までにわかったことと今後の課題～」と題した学会公開講演会を、ぎふ総合健診センター所長 村上啓雄先生を講師にお迎えし開催しました。講演では、ウイルスの特徴など新型コロナウイルス感染症の正しい知識や、マスク装着と手洗いの重要性など、具体的な予防対策について、感染症の専門家としての立場から、様々なデータと臨床からのご経験を交え、非常に分かりやすくお聞かせいただきました。学外から企業・団体を含む100名以上の方々にご参加いただきました。



学生主催イベント「岐協祭」を開催

2020年11月14日(土)、学生団体が主催する学園祭「岐協祭」が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策を徹底するため、開催は半日のみとし、会場は検温と健康チェックなど学生の入場制限を行いました。クラブ団体・ゼミ等による模擬店の代わりに、入場を許可されたキッチンカーがキャンパスに並びました。マスクとフェイスシールドを身につけた実行委員の学生の進行のもと、会場が密にならないようロープで指定された位置に座る学生がイベントを静かに楽しむ様子が印象的でした。



地元高校生を対象に 「起業家教育」・「地域医療」の講座を実施

本学は岐阜県立大垣商業高等学校と教育連携に関する協定書を締結し、相互に連携して教育活動を推進しています。この一環として、「起業家教育講座」(全5回)を開講し、本学の教員4名と大垣市商工観光課の職員が講義を担当しました。2020年度はさらに、地域医療及び新型コロナウイルス感染症等の対策に関する「地域医療講座」(全5回)を開講し、本学の看護学部の教員が講義を担当しました。新型コロナウイルス感染症対策を徹底するため、一部リモートでの講義も実施しました。



「高校生ビジネスアイデアコンテスト」を オンラインで開催

2021年3月13日(土)、第3回「高校生ビジネスアイデアコンテスト」のプレゼンテーション大会(最終審査)をオンラインで開催しました。「高校生のアイデアが未来を拓く!世の中を明るくするビジネスアイデア」をテーマに、6都道府県・9校から26件の応募があり、最終審査は9組がプレゼン大会に臨みました。商品アイデアや社会的需要、ビジネス化した場合の収益シミュレーションなどをまとめた5分間のプレゼン映像を、実務家を含む審査員が厳正に審査しました。



2020年度 卒業証書・学位記授与を執行

3月19日(金)、2020年度卒業証書・学位記授与を執り行いました。学部生・大学院生・留学生別科生ら315名が学び舎を巣立ちました。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底するため、ご来賓及びご家族の出席はご遠慮いただき、学生が一堂に会する式典は取り止めました。卒業証書・学位記授与は各教室に分散して演習担当者が卒業生に渡しました。「変化をとらえ、新しい社会の創造にかかわり、地域に有為な人材として貢献できるよう、奮闘いただくことを期待します」と卒業生に向けて述べられた学長式辞も演習担当者が代読し、理事長祝辞および在学生送辞・卒業生答辞とともに文書として配布されました。



2021年度 入学式を挙行

4月3日(土)、2021年度入学式を本学講堂において挙行し、415名(学部407名、大学院8名)の新入生が岐阜協立大学に入学しました。密を避けるため来賓を招かず入学生のみでの参加で学部に分けて2部制で実施し、式典内容の簡素化、マスク着用など、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで執り行いました。保護者には式の様子を動画投稿サイトYouTubeでライブ配信しました。式典は学長式辞、在学生代表祝辞、入学生代表挨拶と続き、最後に、学歌披露が行われ、新たに本学の一員となった入学生を華やかに歓迎し、式を閉じました。



新型コロナウイルスワクチンの 接種方法に関する研修会

新型コロナウイルスワクチン接種に従事する看護師を対象とした大垣市が主催する研修会で、本学看護学部の馬場貞子准教授、古田桂子講師、野網淳子助教、栗原美和助手が講師を務めました。この研修会は、大垣市と本学との連携協定に基づき、開催されました。新型コロナウイルスワクチン接種は筋肉注射で行われますが、他のワクチン接種の多くが皮下注射のため、接種にあたる看護師の皆さんに適切な筋肉注射の処置を経験いただくことが研修の目的です。新型コロナウイルス感染症対策を徹底するため、研修は2021年4月12日(月)から4日間に分けて開催され、大垣市内175人の看護師の方々が受講しました。

キャリア支援課だより「就職決定者報告」



就職先 - (株)ミロク情報サービス
経済学部経済学科 杉田竜基 さん
(福井県 足羽高校出身)

指針からミロク情報サービスに就職することを決めました。企業の魅力は、社員の資格取得や勉強の支援のための手厚い福利厚生制度などがあることや、会計事務所等の顧問先企業への営業は、提案先企業の業種が幅広いこと、さらに新規開拓営業に挑戦できる環境にあります。

就職活動に新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか？

影響を感じたのは、対面での情報収集ができなかったことです。でも不自由を感じたのはそれぐらいです。企業説明会がオンラインになったおかげで、足を運ばなくても全国の説明会に参加できました。計60〜70社の説明会に参加しました。これは、志望業界を決めきれいなかった自分にとっては大変有益な情報を得られる機会に恵まれたと思います。また、説明会がオンラインになったことで、企業を調べることが鍛えられたと思います。説明会動画を画面で見ているだけでは、より詳しい企業の情報が入ってきません。私は大学での学びを活かして、企業の有価証券報告書やIR情報を分析し、企業理解を深めました。面接や人事担当者への逆質問の機会では、分析した結果に自分の考えを添えて質問する事ができました。例えば、企業の中期経営計画について、市況の変化をまじえた自分の考えを添えて質問するなどです。人事担当者や役員の方には「本当にしっかり調べているね」と、評価のコメントをいただきました。

大学での学びは就職活動に活かしましたか？

先にも挙げた企業を分析するスキルは大いに役立ったと思います。企業の集団面接やグループディスカッションの場で、他大学の学生より質の高い企業分析ができていることを実感することができました。有価証券報告書や企業IR情報の見方や分析方法は、ゼミの三和先生に相談しながら活動しました。

さらに、経済学科企業人育成課程の「地域企業研究」を受講し、在学中にビジネスの第一線で活躍される様々な業界の企業人と交流する機会をもてたことは就職活動においても非常に有益でした。企業研究を深めるため、企業の役員や人事担当者に遠慮なく質問したり、自分の意見についてプレゼンする経験が、就職活動では大いに活かすことができました。

後輩にむけてメッセージをお願いします

新型コロナウイルス影響下での就職活動において、オンラインの環境を整えましょう。グループディスカッションや面接がオンラインで実施される採用選考では、ネットワーク環境やデバイスの不調で通信が切れたら、不合格というケースがあります。私は、自宅のWi-Fi環境を整え、比較的高スペックの高いノートPCを購入しました。オンラインでも見た目は重要なので、ノートPCのカメラ機能にもこだわりました。

また、就職活動のライバル的存在やコミュニティを作ることをお勧めします。オンラインが主流の就職活動は、自分の部屋でほとんどが完結するため、気を抜くとモチベーションが低下し、孤独感に襲われます。

そんな中、やる気を持続できたのは、情報を共有しながら一緒に就職活動した友人がいたからです。彼らはライバルであり、有益な情報をもたらしてくれる存在でもありました。

(株)ミロク情報サービス(東証1部上場)

資本金/31億98百万円(2020年3月末現在) 従業員数/1,640人(2020年3月末現在)
事業内容/会計事務所向け会計ソフト、中堅・中小企業向け統合業務ソフトの開発・販売、コンサルを展開

就職決定先は？

「MJS」のテレビCMでご存知の方も多いと思いますが、株式会社ミロク情報サービスです。おもに税理士や公認会計士事務所およびその顧問先企業向けの業務用アプリケーションソフトの開発・販売や、バックオフィス系ツールなどの販売と保守サービスの提供を行っています。

なぜこの企業を選んだのですか？

内定はソフトウェア関連業界・メーカー・専門商社など複数の業界でいただくことができました。私は「営業力を身につけたい」・「無形商材の提案営業を通じて、自身の提案力とプレゼン力を若いうちに身につけたい」という、自身のキャリアに対する



就職先 - 岐阜県警察本部
経営学部スポーツ経営学科
野原幹汰 さん
(岐阜県 県立岐阜商業高校出身)

3つに分類されます。

「1次試験教養・論文試験」対策のため、1年次からPACを受講した私は、ここで勉強する習慣が身につけられたと思います。PAC支援室で指導にあたる有森先生には、試験対策で大変お世話になりました。先生は何がよくて何が悪いのか明確に示してくださり、自分自身とてもスキルアップしました。その結果、本番では最高の出来と自己評価できる結果となりました。

「2次試験個人面接・集団討論」対策として、自己分析を何回も行き、キャリア支援課で対面練習したほか、警察官を志望する他大学の友人たちとリモートで練習し合ったりしました。本番は手が震えるほど緊張しましたが、練習の甲斐もあり落ち着いて答えることができました。

就職活動に新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか？

例年5月および9月に2回の採用試験の機会が予定されるのですが、2020年度は5月が新型コロナウイルスの影響で中止となり、9月だけのワンチャンスになりました。必然的に合格する倍率も跳ね上がりました。しかし、大学生活でコツコツ準備してきた私は「強化が必要な教養試験の勉強期間が4ヶ月も与えられた」とポジティブに考えることができました。合格発表の中に自分の受験番号を見つけた時は、肩の荷が降りた気持ちになりましたが、より一層気を引き締めなければいけないと感じ、今も緊張感をもって生活しています。

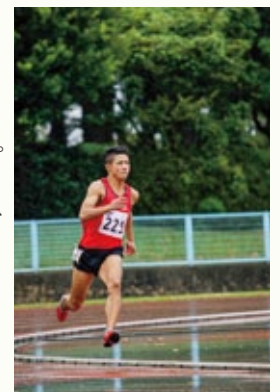
大学生活を振り返って感想をお願いします

継続する力を陸上競技部の活動から身につけられたと思います。陸上競技を中学校からはじめ、100mを専門種目としていました。短距離走は100分の1秒を縮めていくために、地道な努力が結果につながります。私は大きな大会での目標タイムを設定し、1年前から綿密な練習計画をたてて取り組みました。この方法は中学生から続け、高校生までは目標達成して自己ベストを出せていたのですが、大学進学後4年間は自己ベストが出せず、陸上競技が面白くないと感じていた時期もありました。しかしこれにめげることなく、計画した練習を継続させ、4年生でようやく自己ベスト更新、全国大会に出場することができました。

また、所属するゼミのおかげで、主体的に自分から学びに取り組む習慣ができました。岸先生のスポーツ心理学は範囲が広くて、何の分野のことをどのように研究したいのか、領域を自分で明確に決めなければいけません。調査や研究も自分で決め、自分で調べてみて、分からない時は先生に指導をいただくという感じだったので、言われたからやるということはありませんでした。

後輩にむけてメッセージをお願いします

自分がやると決めたら、最後まで妥協せず、やり遂げてください。これぐらいいいだろうと思うことは、過程も結果もいい加減になります。私は大学生活で、たくさんの経験や学びから、大人として成長できました。警察官として1人でも多くの人を助け、色々な人から慕われる正義のヒーローになれるよう、がんばります。



陸上競技 短距離走で
全国大会に出場

法人役員・評議員人事

理事(新任) 境 敏幸
株式会社大垣共立銀行 取締役頭取
(任 期)2021年4月4日～
2023年4月3日

常勤監事(新任) 宮川 祐志
前/岐阜協立大学 事務局長
兼図書館事務室事務長
(任 期)2021年4月4日～
2023年4月3日

評議員(新任) 竹中 裕紀
イビダン株式会社 代表取締役会長
(任 期)2021年4月4日～
2023年4月3日

評議員(新任) 白須 あけ美
大垣女子短期大学同窓会 会長
(任 期)2021年4月4日～
2023年4月3日

教職員人事

〈学内役職者〉2021年4月1日付

石坂 信一郎 副学長(経営学部教授)

〈新規採用〉2021年4月1日付

曾根 孝仁 看護学部教授
安田 裕子 看護学部教授
山本 重人 経営学部准教授
田邊 良祐 経営学部講師
北村 美恵子 看護学部助教
戸村 佳美 看護学部助教
野網 淳子 看護学部助教
水上 和典 看護学部助教

〈再任用〉2021年4月1日付

高橋 利行 経済学部教授
古口 博之 経営学部教授
杉原 健一 経営学部教授
釣餌 丈志 キャリア支援課調査役
安村 千春 図書館事務室調査役

〈昇 格〉2021年4月1日付 ()は前職

水野 和佳奈 経済学部教授(経済学部准教授)
清水 美恵 看護学部准教授(看護学部講師)
坂 覚則 大学事務局長(総務課長)
大江 春彦 図書館事務室事務長(教務課長補佐)

〈配置転換〉2021年4月1日付 ()は前職

森本 堅二 キャリア支援課長(学生課長)
大音 和泉 学生課長(企画広報課長)
塚原 康之 総務企画課長(キャリア支援課長)
杉本 孝行 法人事務課長(財務課長)
高木 恭子 教務課主幹(学生課主幹)
田部 良司 総務企画課長補佐
(企画広報課長補佐)
堀江 淳也 法人事務課主査(財務課主査)
安藤 里沙 総務企画課主査(総務課主査)
志水 優太 法人事務課主事(総務課主事)
冨永 和哉 学生課主事(総務課主事)
山本 悠壘 総務企画課主事(財務課主事)
南部 貴博 法人事務課主査(大垣女子短期
大学事務局より出向)

小笠原 瑞康 法人事務課主査(大垣女子短期
大学事務局より出向)
菱田 良威 看護学部事務室主事(大垣女子
短期大学事務局より出向)
渡辺 正典 理事長室長の兼務を解く
(法人事務局長兼理事長室長)

〈退 職〉2021年3月31日付

高橋 利行 経済学部教授
古口 博之 経営学部教授
伊藤 嘉人 経営学部准教授
大前 智文 経営学部講師
森 浩司 看護学部助手
宮川 祐志 大学事務局長兼図書館事務室
事務長

〈退 任〉2021年3月31日付

古口 博之 副学長

〈国内留学〉2021年4月1日付

藤井 えりの 経済学部准教授
2021年4月1日～2021年9月20日

近著紹介

経営学部 稲垣慶成 名誉教授 執筆による
岐阜協立大学研究叢書

「日独自動車工業経営史」

ふくろう出版 2020年10月

本書は、日独の自動車工業発展の推進力となった経営的諸要因を、ダイムラー社、オペル社、フォルクスワーゲン社および日本のトラックメーカーのような個別企業の経営史を辿ることによって明らかにしたものです。



大学広報誌「GKU Now」
公式ホームページで公開中



◀バックナンバーも
ご覧いただけます。

お知らせ

2021年4月1日より事務組織が改編されました。
法人事務局の「理事長室」・「総務課」・「財務課」が統合され「法人事務課」となりました。
大学事務局の「総務課」・「企画広報課」・「財務課」が統合され「総務企画課」となりました。

●学校法人大垣総合学園 事務組織図

2021年4月1日現在

